

見直しの要否について

資料1

実績値と量の見込み（当初計画）との乖離状況（平成28年4月1日時点）

	1号	2号		3号		
		教育	左記以外	0歳	1～2歳	
量の見込み(当初計画)	1,775	1,016	4,184	892	2,198	
量の見込み計(A)		2,791	4,184	892	2,198	
実績値	支給認定児童数(H29.3.1現在)	693	/	3,377	922	2,154
	従来型幼稚園(未移行園)入所児童数(5.1現在)	2,277	-	/	/	/
	認可外保育施設入所児童数		/	628	12	192
実績値計(B)		2,970	4,005	934	2,346	
乖離状況(B/A)		106%	96%	105%	107%	

【国が示した考え方】

- ① H28.4.1時点の支給認定区分ごとの子どもの実績値が、当初計画の量の見込みよりも10%以上の乖離がある場合。
- ② 10%以上の乖離がなくても...
- ・H29年度末以降も引き続き受け皿整備を行わなければ、待機児童の発生が見込まれる場合。
 - ・既に当初計画で設定した目標値を超えて整備を行った年度がある場合。
- ③ ①②に該当しない場合であっても、各市町村の判断により見直しを行うことは差し支えない。
(※実績値 > 量の見込みとなる場合は見直しを行うことが望ましい)

【1号+2号(教育)】

- 1号の量の見込みには、支給認定を受けない従来型幼稚園(未移行園)を利用する子どもも含まれている。
- 2号(教育)の量の見込みには、未移行園の利用者が多く含まれているものと考えられるが、実績値の把握は行えないことから、1号認定と合算し比較する。
- 支給認定児童数には未移行園の人数は含んでおらず、量の見込みとの乖離は39%($693 \div 1,775$)となっている。未移行園入所児童数を加えた数値との比較では106%($2,970 \div 2,791$)で10%以内の乖離となるが、実績値が量の見込みを超えており、また、既に当初計画で設定した目標値を超えて整備を行っている年度があることから、見直しを行う。

【2号(左記以外)】

- 2号認定(左記以外)の乖離は96%($4,005 \div 4,184$)で10%以内だが、既に当初計画で設定した目標値を超えて整備を行っている年度があることから、見直しを行う。

【3号】

- 0歳は、4月1日時点での認定児童数は375人であったが、年度途中から利用が増えることから、平成29年3月1日現在の支給認定児童数を実績値として置き換え比較。乖離は105%($934 \div 892$)。1～2歳の乖離は107%($2,346 \div 2,198$)。
- いずれも10%以内の乖離だが、実績値が量の見込みを超えており、また、既に当初計画で設定した目標値を超えて整備を行っている年度があることから、見直しを行う。